

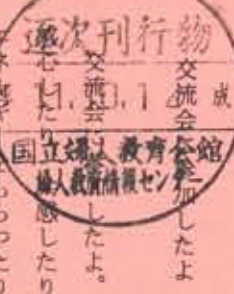
1999年10月号

Enfanter ● No.252

あんふぁんて

Enfanterとはフランス語で

①子を産む②(計画などを)考え出す③(作品などを)創り出す、の意



顔を突き合わせるって、すごい。
はじめてなのに、十年來の友のよう。

同じ時代を
あんふぁんてでつながっている喜びを
感じたよ。

もっと、もっと、お話したい。

だから、今期一緒にやろうよ。遊ぼうよ。

来れなかった皆にも伝えよう。

電話で、FAXで、メールで、郵便で、会って。

コミュニケーションの手段はいくらでもあるよ。

3人よれば文殊の知恵、仲間をふやして、
魅力的な自分をあんふぁんてしよう。

表紙 詩 イラスト 岡野
本文中 イラスト 佐藤



交流会報告

— 仲間を増やそうあんふぁんて —

P2

- ・SAY・性・生のコーナー
- ・あんふぁんてからあんふぁんてへ
- ・情報コーナー

P6

P9

P15

- ・ティーブレイク報告

P8

- ・お久しぶりです

P11

- ・(新連載) やっぱり神戸が好き

P16

交流会報告

今年も、年に一度の来期案決定のための交流会が、八月二十六日に池袋のエポック10で開かれた。参加は大人十九名、子ども十四名。

☆午前中の話し合いは・・・☆

●今期の活動報告

数社の新聞に掲載されたことを機に、問い合わせや取材などが多かった。取材は硬軟いろいろあり、あんふぁんての趣旨に沿ったものを選ぶのに手間取った。

また、東京都の教育委員会からの質問もあり、これまでの活動の成果を感じられた。

☆どんな保育がほしいか

冊子完成。今後、一部三百円で販売される。今後は、新聞社や育児雑誌などにも送る予定。また、十一月に報告発表会があるので、もうひとがんばり！

☆お産本の出版について

出版社に問い合わせたところ、助産婦さんの視点でお産の本を作ろうという企画があることがわかる。助産婦側としては出産後のなまの体験談が少なく、あんふぁんて側としては医学的な裏付けに弱いので、共同で本作りしたらどうかという話に発展してきた。できるだけ「あんふぁんてらしさ」を失わないように注意しながら進めていきたい。

☆午後の交流会は・・・☆

子供達と一緒に保育室で食事とお茶会。初めて会った人でも、子育てのたいへんさや、夫との関係やら、つついといつもの話題に。もしかしたら、こっち(午後)の方が楽しかったりして。

愛知から、山梨から、群馬、埼玉、神奈川から。もちろん東京都内の人。何かを求めて、メンバーと支え合うために、参加してきた。

「子供が小さいと、どうしても読むだけになってしまふ」

「それは、みんな同じ」

「読むことだって立派な会員」

「斜め読みだけれど、抜ける気になれない」

どこか、自分の居場所という気がする」

「自分宛ての手紙が来るって言うことが、すごい励みになる」

「大きくなると、手が放れて楽だね」(母乳をあげている会員)

「小さいうちの方が自分の思うとおりに育てられる。今は全然ならない」(思春期の子に悩んでいる会員)

「私は、三歳から五歳が鬼門よ！」

「そんなものよー！」(笑) (子供が成人している会員)

「集まると(自分の身体のこと)どこが調子悪いとかの話になっちゃう」(子育ても夫婦関係も卒業した？会員)

☆ホームページについて

なぜか、アクセス件数が増えない。公共の「女性センター」などにアクセスすると関連情報として載るようになっていたのだが、申し込んでも返事が来ない。行政や省庁に「団体」として登録した方がいいのではないかな。

●来期の活動案

テーマ

99 仲間を増やそう
あんふぁんて

☆保険について

団体登録を考えた時、保険を付けているということ、ただの主婦の集まりという印象ではなくなる。また、他のグループで保険を付けているのを見ると(聞くとか)とても高額になっている。これはやっぱり継続したい。

もちろん、会員同士のティークレイクや小さなイベントにもどんどん活用して欲しい。趣意書や今年のグループリストに手続きなどを明記してあるが、具体的な活用方法や実例などを明記したパンフレットを作って会員に配るほうがよいという意見あり。

「自分の子供でも性格が合わないと思う」
「そうそう、一緒にいると煮つまっちゃう」
「それって、似たもの同士と夫に言われた」(笑)

「転動で引っ越して、まだ、ダンボール箱が片づかないの。友達作りまで、たどり着かない」

「友達を作ろうと思ったら、ついついあんふぁんてを熱く語ってしまった」
「そうよね。宗教じゃないんだけどって言うておかないとね！」(笑)

そして、あつという間に時間は過ぎ、みんなバラバラと解散していった。いつもの街、いつもの生活へ。

まとめ担当 上里町

☆保育室の状況について☆



保育は、午前の部は分室保育、午後の部は同室保育で行われました。

☆お産本の出版

出版社との連絡・打ち合わせをするお産本委員三名を決めた。今後、表紙のデザインなど、本のイメージを募集する予定。また、出産後三年までの育児体験などを、改めてアンケート調査したい。

とにかく、新年度中には出版したいので、協力者いつでも募集！

☆一人一人の活動を助けたい

(近くに会員がいない、近隣リストをもらってもなかなか連絡を取れないあなたのために)

「私の街の公民館等呼びかけるポスターを貼りたいけれど、何かあんふぁんてらしいチラシやポスターは無いの？」「あんふぁんての本のPRは？」という訳で、イラスト好き！デザイン好き！のチラシ製作委員(?)を募集します。

ポスターやチラシができれば、どこかに置いたり貼ったりしてみよう！

たった一人でも、

「〇〇あんふぁんて」を
名乗っていいんだよ！



☆会報について

印刷費を浮かせる方法を考えよう。パソコンを使って少しづつ原稿を作るのはどうか？「新入会員自己紹介コーナー」のネーミングについて。「最新自己紹介コーナー」は？名古屋に移った今井さん中心に、名古屋で編集会議を行う予定！

午前は、子ども十四名(赤ちゃん二名)。ナースリー・豊島(保育者グループ)の四名、高校生一名、雑用一名(竹内)の計六名で、保育を担当しました。

また、お母さんとうまく離れられない子ども用に、会場の多目的ホールの方にも保育室からレジャーシート二枚とベビラック一台、おもちゃカゴ一箱を運び、小学生の姉妹二人が手伝いに回りました。多目的ホールへの物品の移動については、エポック10の職員に話をし、保育の場が二か所になるということを事前に確認しました。

二名の赤ちゃんが授乳のためにお母さんの元に来た他は、あまりぐずる子もいず、順調に保育ができました。

午後は、昼食の後、高校生が持参したアニメビデオを見る子が大部分。興味のない子は、馬のように寝るおもちや乗ったりして、話し合いのテーブルの回りで遊んでいました。

岸さん(子ども達)の小さなトラブルに素早く対処してくれて、大きな混乱もなく話し合いの方もできたと思います。

今回の保育は、参加した子の大部分が何回かこのエポック10の保育室に来たことがあり、子ども同士も顔見知りだったので、特に泣く子はいませんでした。受付もスムーズに進み、母親へのおやつ確認や、荷物預かりも問題なく良かったです。ただ、保育室を飛び出して三ノ四回母親の元へ来てしまった子がいたことは、これからの分室保育のあり方を検討する上で一度考えてみたい点です。

(報告 豊島区)

交流会に参加して

参加することに意味あり

東京都

「えっ！こんなに少ないの！」交流会に参加したのは四年ぶりのことですが、そのとき（中野だったと思います）は、会場がいっぱいの人でした（子どもも同じ部屋にいたというところもあったかもしれません）。これこそ、会員が減ってきている現れの一つかなと思ったりもしました。けれども、人数の少ない割には、参加者のあんふぁんてに対する熱意が強く感じられて、内容の濃いものでした（あまり深く考えてきていなかった私は、ちょっと場違い？と思ったりして）。浜松あんふぁんてはあんふぁんての会員が一人であとは会員外とか、保険の賢い使い方とか、チラシなどがあつたら勧誘しやすいとか、なるほどねとあらためて知ったり、気づいたことも多かったし。

私自身、今はあんふぁんての積極的会員とはとてもいえないのですが（アンケートも出さなかったり、会報も見出しくらいしか読まないときもあるし）、上の子が六カ月のころから二才くらいまでは、あんふぁんてが心のよりどころでした。平日あんふぁんてに顔をだしたり、事務局で会報の手伝いをしたり。でも、その後子どもが保育園に入ってから、私も仕事に少しずつ本腰が入られるようになって、最近では会報を読むだけの関わりになっていきます（仕事がフリーの編集関係で常勤ではないため、多少の融通がきくので、最近は一

交流会参加は

できなかつたけれど

私がいられる場所です

U・K

「今は、育児サークルがとて盛ん」との新聞記事を読んだ。しかし、育児雑誌のサークル募集の所には、「〇〇年以降に生まれたママ」とか「〇〇ブランド好きのママ」とか、年齢とか趣味とかで会員となる人を条件付けて迎えている所が多い。そういう仲良しサークル的な所は、それはそれで楽しいし、いいと思うが、ちょっと気になることもある。

また、それとは違うが、以前、保母とかイラストレーターとか、資格や特技を持っているママたちを対象にしたサークルのメンバーで、「あんふぁんて」にも入っているという人に声をかけてもらい、一回だけ話をしたことがある。記憶違いかもしれないが、サークルの中でもいろんなグループに分かれていて、イベント等を企画して企業に持ちかけたり、ビジネスに結びつけようというような趣旨を持ったサークルだったと思う。

それを聞いた時はすごいと思ったし、彼女たちの活動が新聞や雑誌で紹介されていたのを読んだ時も、えらいなあと感じた。しかし、一方で、では資格や何の特技も無い人はいれないのかな、そういう人は用はないぞって言われているような、うまく書けないが、人と人との結びつきが、資格とか特技とか、ビジネスとかに関連づけられている点に何か

お産本」のミーティングにはしばしば顔をだしています（笑）。

会員の中には私のように、会報を読む（受け手）だけになっていく人が多いのではないのでしょうか。今回の交流会のことも、「あんふぁんてを動かしていく人が集まって、難しく議論しあう場」だと誤解している人もいるのではと思います。

でも、遠方の人や常勤の人は無理かもしれないが、こんな人だったのかと、会報で名前だけしか知らない人と実際に会ったりするだけでもけっこう楽しいし、せっかく会費を払っているのだから、自分とあんふぁんてとの関わりを確かめる上でも、もっとたくさんの人が参加できたらいいのに、と思いました。



出会える楽しさを感じて

甲府市

会員になって六年。甲府（山梨県）からあずさに乗って六カ月の第三子を迎えて、初めて交流会に参加しました。藤市（埼玉県）から二年前に引っ越し、事務局から遠いばかりか近くに会員がいなくなると、「ああもつと近くにいたときに動いておけばよかった」と強く思いました。少しずつあんふぁんてから気持ちに離れていく感じで、会報も熟読しないまま次号が届いたり。

そんな私が交流会に行ってみようと思ったのは八・九月合併号の「夫について」の特集

違和感を持った。

一方、「あんふぁんて」は、入会するのに条件（年齢・趣味・資格等）はないし、（会報で）本音は聞けるし、その気になればイベントに参加できるし（そこが育児雑誌と違う）、いろんな人（会員の方）に会えるし、全国的だし（あんふぁんてに入らなければ一生、絶対知り合えないような遠方の人との意見を聞ける）、歴史は長いし（わたしも、読むだけ会員だが、その歴史の一部になりたい）、これからずっと続いて欲しいと思っています。



まとめ

年に一度の来期案決定交流会は、普段会えない会員とも会うことができ、私はそれが何より楽しい。

交流会は、名古屋から駆けつけてくれた今井さんの議事進行で滞りなく終わり、来期はいろんな人と出会うことができようというところで、99仲間を増やそう、あんふぁんて！になりました。

でも、だからといって何か必ずこれはやらなくちゃいけないとか、そのためのノルマがあるとかいう訳ではありません。ただ「自分のためにいろんな人と出会うてみようよ」ということです。

あんふぁんては、間口が広い会なのでとら

を読んだからです。六年前、長男を抱え、密室育児におちいってもんもんとしていた私は「ひとり子育てしないで」に出会って救われました。「私だけじゃないんだ」という気づきはとても心強く、誰もみな同じように悩んでいるという本音がうれしく、事務局にすぐ問い合わせの電話をかけていました。今回、会報の「夫について」の特集を読んで、うなずくことがあり、「私だけじゃない」思いが沸き上がってきた。無性に会員の方に会いたくなりまして。それを書いたご本人に会いたいということではなくて、会報を通じてつながりあっている会員の誰かと話がしてみたいと思ったのです。

そうして交流会に参加してみても、いつも活字でお馴染みの名前とご本人が一致する面白さをまず感じました。それから、たとえば古知さんはフルチではなくコチと読み、角谷さんはカドタニではなくカクタニと読むとか、私が一方的に決めつけていた名字の正しい読み方を知ることが新鮮でした。つまり、その人を目の当たりにすることで、「あんふぁんて」は私の中で、紙面だけのものではなくて、生きていくものになりました。

少々緊張して、最初は居場所を探してしまいましたが、時間の経過とともに交流会が居心地のいい場になってゆきました。会員同志ということと、地方の私でも、またどこかで会えるかもしれないという期待感があり、次のつながるものも感じました。実際、山梨での交流の場（お泊まり会的な）を作ってみようかとも思っています。思い切って出掛けていってよかったです。

えどころがないとか、わかりにくいとかよく言われます。でも、「子育て」と一口に言っても子どもの性別や年齢によって問題や関心が違ってくるし、ただ食べさせて大きくすればいい訳でもなく、ましてそれらは母親だけが背負い込む問題でもなく、また、家族だけで解決できる問題でもなく、また、家族だけで解決できる問題をみんなで話し合ったりします。そんなこんなをみんなで話したり相談したりして解決していくというところが、あんふぁんて。それを一口で言い表して伝える事はなかなかむづかしい。そう！だからそれその人の人が気になっている問題から入って来ていいたよ。そして、いろんな人の考えに触れてみると、いろんなことに気づかされた。だから、何かしなくちゃいけないんじゃないかと、どんふうにいてもOK！読むだけ会員いいじゃない。もしかして何か心に動いたらペンを取ればいい。アクション起こせばいい。いろんな人が色んな風にいるのが、あんふぁんてだと思ふから。

さて、今回の交流会で決まったことの一つに、仲間作りのための手助けとしてあんふぁんてのポスター・チラシを作ることにになりました。そこにいままで会報の表紙や本の中に掲載した詩も使いたいねって事にもなりまして。だから、お気に入りの詩があったら教えてください。（注：あんふぁんての時に限らず、また、手紙や電話でおしゃべり相手になってあげる「電話かけ隊」「手紙書き隊」があったらいいかもというアイデアも募集します。この内容を検討してくれるスタッフも募集します。また、投稿・詩・イラストはいつでも募集しています。

ということと、来期のあんふぁんてもおもしろくなりそうです。（豊島区）

あんふぁんてティープレイク 「女のからだについて語ろう」

報告

ティープレイクをしました

豊島区

五月二十四日(月)、佐藤助産院院長であんふぁんての会員でもある佐藤 助産婦さんを開いて、ティープレイクをしました。

佐藤さんから三つの質問が出されました。

A. パートナーとの関係について
B. パートナー以外の男性との付き合い方
C. 娘の初体験について

十五分位自分の考えを紙に書き、それを回収して読みあげます。人それぞれに意見があり、とても一日では語り尽くせません。でもCに関しては、やはり娘という設定です。セックスと妊娠という問題には各人とも共通の関心がありました。娘のセックス体験を今の親世代の私達は頭から否定することはできませんが、やはりセックスには愛が存在して欲しいと思う女親に對し、佐藤さんは、男女の体の違いを説明してくれました。女性は、つきあい方で心理的悩みが多く、男性は、性器の悩みが多いということです。また次の機会にこの問題についてティープレイクをしたいと思います。

初めてティープレイクに参加して

板橋区

娘が四月二十七日に生まれました。あんふぁんてをきっかけにして、いろんな情報を集める

あんふぁんてから あんふぁんてへ



「子ども虐待の定義拡大」の厚生省のコメントにイカってしまいました！

松戸市

七月五日付けの朝日新聞夕刊に「子ども虐待拡大」の記事が載ってました。そこで気になる厚生省のコメントが。

「ベビーカーや車に子どもを残していくことは親の不注意ではなく虐待だ」との事。確かにベビーカーを置いて二階に上がりその結果誘拐されるという事件もありましたし、パチンコに夢中になって子どもが死亡などという事もあります。けれど、親にばかり負担を強いるのはどうでしょう？乳児・幼児を連れての買い物、通院など、母親ひとりでは大変な事が多すぎることを厚生省は認識しているのでしょうか？ホンの少しの時間でも子どもを預かる制度もないのに。欧米では、引き合いに出していますが、小さな子どもを持つ親への負担度合いが欧米と日本では差がありすぎることを知っているのでしょうか？

ことが出来、今の私には十分な、納得の行くお産ができた。退院後、おっぱいマッサーおよび育児相談は、うちと近所ということもあり、その情報収集のきっかけとなってくれた佐藤先生にお願いした。そして、今度佐藤助産院であんふぁんてティープレイクがあるという。うーん、これは。娘はまだ生後三週だったけど、私のお出掛けの虫もうずいた。小さな娘を連れて、助産院に行くなら何の不思議もない。よし、行こう、というわけで初めてティープレイクに参加した。そして娘は、生後三週であんふぁんてにデビューした。(編集部註：コレは、最年少記録です)話し合ったテーマは、三つ。A. B. については、日頃よく考えていることで、すぐに私の考え方のようなものを思い描くことができた。しかし、C. については。うーん、ヘビーである。なんせ三週間前に娘を持ったばかりである。その後家に帰ってぼんやり思い描いてみても、C. の状態をイメージすることは未だに出来ずにいる。だって、だってこいつ、まだ、こんなに小さい。ただ、「変な男にスキップを求めたためだけに、身体を触らせるような女の子にはならないでね♡」と思いつながら、日々ベビーマッサージに励んでいる。こいつ、どんな風に大きくなっていくんだろう。そして、私は、納得の行く初体験を選びとれるようなひとに、娘を育てていけるんだろうか。

私は、今年の一月にあんふぁんてに入会して、会自体とおつきあいはまだ浅い。しかし、あんふぁんての人と話をすると、すでにかなり気を許してしまっていて喋っている。普段キチンとした制度も作らず、一個人にばかり負担をさせる政府にはもううんざりです。まず、自分たちが手本を示してください。たった一人で毎日子どもを連れて生活してください。一年間やってみて下さい。期限付きでも辛いことがわかる筈です。机上の空論は沢山です。

都会と田舎の子育て環境の違い

福島県

渋谷区民から東北地方の村民になり一年余り、都会と田舎の子育て環境の違いを垣間見えています。

自然の豊かな環境ですが、都会にいたときのイメージと違い、子供達は自然の中で遊んでいるわけではなく、公文やブルー、テレビにポケモン、ゲーム……、都会と変わらない面が多いのには驚きました。車がなくて生活できないから、移動はほとんど車、都会のほうが歩く機会も多いようです(小学校もスクールバスがある)。

おばあちゃんと一緒に暮らしている人は、おばあちゃんにまず母親が子供と遊ぶという意識がなく、親子サークルに入るのもままならない。そんなに子供と遊んでいないんだら、子供をおんぶして遊んでいっていいわね。おばあちゃんも時代はそうだったんですね。お母さんもおばあちゃんがいるから子供を預け、仕事に就く。そのほうが楽だし、お金も入るし。だから親子サークルは地元の人には少なく、転勤族や核家族の人が多い。学校の親子参加の行事で恐ろしい添加物たっぷりの安い菓子を配られ、これには辟易。

周りにいる人々との会話では、かなり注意してセーブしているような内容である。変な人と思われたいかな？気の小さい私は、いつも周りの評価が気になってしまっている。しかし、あんふぁんてでは、なんだか本心に私の思うことだけを、気軽に喋ってしまおう。会報等で触れる人々の考え方に、何となく私に近いものを感じ、あんふぁんて自体に初めて安心していたのだろうか。

ティープレイクに参加して

杉並区

二歳七カ月の娘と参加しました。場所が助産院ということ、あまり広いスペースではなかったのにと居心地がよかったです。心身共に自分をさらけ出す場として最適なのかも。娘も生後まもない赤ちゃんを初めて間近にし、これぞと足をさわたり、おっぱいを飲む姿をのぞきこんだりとおもしろかったです。また、参加したいです。

ティープレイクをしてみませんか？

あんふぁんてティープレイクは、テーマを決めてじっくり話をしたい人が呼びかけて実行しています。あなたも声をかけてみませんか？

(都会でも？)でもここでは都会で安全な食品として売られているものがなかなか手に入らない。添加物や農薬、洗剤など無頓着な人が多いと言いか、問題意識を持った人にはお目にかかれたい。またも本屋は無く、となり町に唯一あつたらしい映画館はとうの昔につぶれ、みんなどこでどんなカルチャーしているんだらう、と不思議。でも幼稚園のトールペイント講座は若いお母さんたちであふれかえっているって聞くし、都会のかけらが偏って流入しているって感じます。でも地元の人達は優しく、季節の野菜はもらえるし、空気は格段に良いし、やっぱり良い悪いは裏腹ですね。

図書コーナー

愛知県豊川市

「殺意をえがく子どもたち」 学陽書房
三沢直子(心理カウンセラー)著 千五百円
私たち母親の気持ちにたつて、社会をどう変えていくべきか、そのためにどう行動すればいいか、提言して下さいます。そして著者自身、銀座でお母さんたちとデモ(子連れママ、メッセージ・ウォーク95)をされています。(しかも、あんふぁんて旧会員)是非一度、みなさんも読んで下さいね。きっと自分も一歩ふみ出せますよ。



あんふぁんて的相互託児の会が 広がるといいなあと思います

浜松市

あんふぁんて浜松の
です。

こちらの情報誌にあんふぁんて浜松が載ったことで、あんふぁんて浜松への問い合わせがあとをたちません。メディアの力ですね。こういったことから、全国的に転勤族も多く、肉親が近くにいないという人も多いので、保険がついているあんふぁんてのシステムは、友人も作れるし、預け合いもできるという良い面が多分にあると思います。問い合わせの方々は「民間だと預けるのに高いし！」と本音で話して下さる方もちらほら。

いかがでしょう。「あんふぁんて的相互託児の会を作ってみませんか？」というふれこみでメディアなり行政にかけあって紹介してもらい、作りたいと考えているところにノウハウを教えるというの。マニュアルを作った申し込みのある方には郵送代と少々のコンサルタント料としてあんふぁんての運営代になるには足りないかもしれないけれどなにがしかいたいただくか、あるいはあんふぁんてに登録していただくというの。私自身として全国的に横のつながりも活性化できたらと考えていますので何かできたらいいなあと思っています。全くの個人的な思いつきの考えですが。



お久しぶりです

川崎市

あんふぁんての合宿におんぶして出かけたあの息子が、今や百七十五センチにもなり、私を見下ろしています。

振り返れば、二十三才（昔、田舎の徳島では結婚適齢期と呼ばれていた）を過ぎる娘を心配するあまり、母は結婚バニクに陥り、私は嫌なら別れればいいやと思って、二十四才の時見合い結婚してしまいました。案の定、夫を好きになれない私は、妻にも母にもなりきれず、十五年近く悩み続けたのです。子どもも年齢の時々にお母さんたちと仲良くしたり、それなりに過ごしていたので、人からはごく普通に見えていたと思います。でも、心の中は常に落ちない結婚への不満で自爆状態でした。子どもを心からかわいいと思えない自分に自己嫌悪を感じていました。

そんな時、ずっと変わらなずお付き合いしてくれていたのが、「あんふぁんて」のメンバーです。土曜あんふぁんてに行くと、近所の友達とはちょっと違う、本音で話せる人達に会え、ホッとしました。いつでも行けば会える、という場があることが、私にとって大きな救いでした。だから、子どもが大きくなってもやめられないのだと思います。

話を戻しますね。二十代後半から三十代前半までは、子どもの発出性中耳炎に悩まされながらも、経済的自立をめざして（何だか、今では死語のよう！）友達と預け合ってパートから始め、小学校入学後は児童保育に入れたフルタイムで働きました。でも、憧れのフルタイム（保母）はあまりのハードさに体力

再就職活動のトンネルを抜けて

新潟県新津市

大変でした。再就職をする必要に迫られてこの一年半弱、精神的に重たい日々でした。児童保育の指導員というパートの職はすぐ見つかりましたが、社会保障は何もなく、これでは生活はしていけません。教員採用試験にチャレンジしたりしましたが、今の時世、教員になるのは、ラクダが針の穴を通るよりも難しい。どんなに勉強しても採用試験に受かる可能性は限りなくゼロに近い、とあきらめました。

そうこうしている時、ふと目に止まったのが特別養護老人ホームの職員の募集です。（市の広報などによく見かけました。）「人を相手にする仕事をしたい」と長年思っていたので、「よし！」と一念発起して、特養の寮母職をめざすことにしました。

しかし、これも今の不況、最悪の雇用情勢を反映して、数名の採用枠に百人以上も殺到するあり様。何の資格もない私は、採用試験を受けても受けても落ちること落ちること！また、せめてホームヘルパーの資格でも、と思いついて、その養成講座を受講しようにも既に満杯状態で何カ月も空きを待たなければならぬ！とのこと。——希望する職なんてあるのか？といった私はどうすれば道が拓けるのか？と暗澹たる思いでいっぱいでした。一般の会社などに応募しても履歴書は送り返されてきます。学歴なんて全く役に立たないし、かえって邪魔になることもあるようでした。何とか三月末に、住んでいる市内にある特養に採用が内定し、十月から勤めることにな



り、ホッと心の底から安心しました。しかし、自分ではそう思っていないくとも、専業主婦で子育てしていた数年間（自分にとっては三十代の大部分）って何の評価もされないブランク以外の何物でもないようです。自分では、それなりの能力があると胸を張っているけど、世間から見ればただのオバサンなのかもしれない、と現実を痛感しました。（悲しかった反面、勉強になったし、自分のうぬぼれ・甘さなどを反省させられもしました。）

さて、これからは、二十代の〇〇の頃とは全然違う新鮮な気持ちで仕事するつもりです。あの頃と違って、結婚とか出産とかのしがらみがない状態で仕事のことを考えている自分がいます。ところで今になってみると、時間や余裕のある時にやろうと思えば出来たことが意外にあったことに驚きます。前述のホームヘルパーの資格にしてもそうだし、大学の通信教育を活用すれば子育て中の「ブランク」にだって後で役に立つことがたくさんありそうです。ね。（私は、社会福祉士の受験資格を取っておけばよかった！と残念がっているところです。）

の限界を超え、入院するはめになって諦め、それ以後は市の介護講座を受けてヘルパーをしました。将来の田舎暮らしに備え、現金収入になる仕事だと思って。年寄りも嫌いじゃないしね。そんなこんなであってあれこれした割には、経済面も自分の思うようにならず、体も心もボロボロになり、心理学セミナーに通ったりしながら何とか過ごしました。三十五才を過ぎる頃、今度は自分のペースでできる事をやろうと、近くの陶芸教室に通い始めました。基礎を身につけるため二年半必死で通い、後は家でやろうと思ってやめました。そして、ついに和室でも使える念願の窯を買い、近所の友達とお茶飲み会のような陶芸教室をやったり、出来上がった作品を自宅ギャラリー（ただ並べてあるだけです）に展示したりしていました。そんなある日、ある雑誌に、陶芸をしながら自給自足のひと暮らしをしている女の人が載っているのを見つけた。「これだ！」と思ったのです。彼女は、持たないことの自由と創ることの豊かさを実現しており、それはまさに私が結婚以来漠然としていた時も含めて、追い求めてきた暮らしだったのです。雑誌の上とはいえ、私の夢を実現している人に巡り会え、とても嬉しくて、目の前がパッと開けた感じでした。

ここまで来る（自分で自分の人生に折り合いをつけ、納得できるようにする）のに随分な時間がかかったけれど、何もかもすべて無駄な事はなかったんだなあと思えるようになりました。それは、四十代に入ってから、苦しかった三十代のご褒美のように私にもたらされた心の平和でした。すると、子どもとはとてもいい関係になれて、夫には感謝すらできるようになりました。私は何もかも人のせいにして人を責めていたのですが、夫は常にいい人で暖かく、私のことを見ていてくれたのです。でも、今でも好きにはなれなくて申し訳なく思っています。

先日読んだ本の中に、「人にならなくていいと思うのは自分勝手以外の何物でもない」という言葉がありました。そうだな、自分が変わるに限る！と、今は言える私です。そうこうするうちに、誰にも訪れる親の問題というのも出てきました。そろそろ更年期なんぞも出てくるかなあと、人生いろいろあるけれど、何だか今の私はとても楽天的に物事を考えられるようになっていきます。そんな私は、あんふぁんて歴二十年（長いなあ！。なんと独身の時、友人の勧めで入会）。都会の中では図書館が一番好き。大好きな花と野菜を育てられて、うちのミニチュア・ダックスも走り回られて、陶芸用の土間もある。この世の楽園を森の中に作るため、友だちとランチや旅行をしつつ資金かせぎをしている、四十三才なのでした。

追伸V先日、京都の友達に二年後の楽園計画の話をして、「そんなもん今は先のぼしする時代ちゃうで！」と言われ、それもそうだな、「今、ここ」が大事なのだからそれを一番大切にしながら夢に向かって走ろう！と思う私でした。それから、私の楽園計画には入っていない夫のことも、「そんなこと言わんと、入れたげな！」と言うので、それも考慮中。あんなにすべてのことから自由になりたかった私が、ウソのよう！。

子どものケガと教師の対応 富田林市

うちの息子(小四)は、良く言えば天真爛漫。好奇心の赴くままに動き、周囲に迷惑をかけることもしばしば。親や教師が手を焼くタイプだ。ただその困った所が「人とは違う感性」から、特に「人とは違う」と一年生の担任だったK先生は認めてくれたが、現担任のN先生には「要注意」のシールを貼られている。お調子者の彼は人にちょっかいを出すのが好き。「君は、人の嫌がることを平気です」とN先生は言う。おふざけを喜ぶ男子の間では人気者だが、真面目なクラスメイトには嫌われるやろうなあ。

そんな息子が友だちに石を投げられ、顔にケガをして帰ってきた。投げた方は「まさか当たるとは思っていなかった」とらしい。友だちにケガをさせられたのは五回目。どれも、押されたら落ちた、ぶつけられたら切れた、という突発的なケガで、相手に悪気はない。

「はおもろいヤツやから、何かしよるで」という妙な期待感を持たれるキャラクターのせいか、逆にちょっかいを出され、思わぬケガを繰り返してきた。中には縫うようなケガもあり、イヤな思いもしたが、低学年の間は「男の子だし、元気な証拠かも」と流してきてた。けれどもう四年生、ケガをさせられる一方なのも気にかかり、クラス懇談会で思い切った話をした。「石をぶつけられてケガをしたこと。相手に悪気はなかったが、人を傷つける可能性があることには注意するように、各家庭で大人が子どもたちに注意を促して欲しい」と。N先生は非常に驚き、さっそく息子に問



いたのでしたが、彼は誰に石を投げられたか言わなかった。私も「子ども同士の間で、信頼関係を壊したくないし、今後の予防のために『気を付けようね』と呼びかけて欲しいだけで、誰がという問題は問題にしないで欲しい」と言った。しかし、翌日N先生は「こんなことしたのは誰ですか?」と聞き、石を投げた子に手を上げさせたのだ。私たち親子の真意が伝わらなかつたことを知り、とてもがっかりした。その子にも「要注意」のレッテルを貼るつもりだろうか? N先生は「子どもは必ずいところがあるから、百パーセント信用しないように」という話を平気でする人で、私は好きになれない。犯人探しをする教師よりも、石を投げた友だちを一言も叱責しない息子や、その場においても告げ口しない男の子たちの方がよっぽど信頼できる。問題が起きたときの教師の対応は必ずしもベストではなく、話をすることの難しさを実感した。

LDかもしれないわが子、その後パートII 匿名希望

九十八年二月号(No235)で「LDかもしれないわが子のその後」を書きました。その後のことです。

先日又、児童相談所へ行きました。五年生のときから積極的になっているいろいろなことにチャレンジするようになったのはいいんですが、その分悪いほうに出きて、パニックになったとき手が出るようになってきました。担任の先生が心配してくださって、色々彼のことを考えてくれました。

当時から専門家の意見をききたいと言っておられましたが、私自身も忙しさにまぎれてそのままだけにいました。六年生になった時、同じ先生が担任になって、どうも放っておくわけにはいけなくなりました。

前回の先生はよそへ行かれたそうで、別の先生でした。色々話をしたり、テストをしたり。

やっぱりボーダーラインでした。ただ、知能テストで見たところ、できることとできないこととの差が広がっているとのこと。どうも目で見えたことをちゃんと理解できていないです。今自分がどういう状況で何をしないくてはいけなくわかっていないようです。この辺をちゃんと説明してやって下さいとのことでした。わからない子ではないので、とも言っていました。

最後の手段で通級教室というのがあるそうです。



小学校の学用品、わが子の場合

府中市

四月号(No247)に松本 さんが、新入学用品をすべて同じメーカーの品で揃えさせられ、中にはほとんど使わない算数セットもあったと書いていました。うちの子もまたが通った学校では、全く事情が違いました。

上の子の時には、入学説明会の時に廊下で「もし新しく買う予定ならこれを」と簡単な学用品セットを売っていましたが、それを使わなくてもかまわなかったし、学校の机の中に入れておく道具箱も、空き箱などでよいというものでした。私が段ボールに壁紙を張って丈夫にした箱を作った持参品でした。算数セットはありましたが、1が5個集まると5の固まりになり、1が10個集まると10になるというところがわかるような、簡単なタイルと箱のセットでした。値段も、はつきりとは覚えていませんが、たいした金額ではありませんでした。文房具で注意されたのは、缶ペン(金属製の筆箱)は音がうるさいし、六角形でない丸い鉛筆は転がって落とすしやすから使わないでということくらい。

その六年後に入学した下の子の時には、特に文房具のセット販売もなく、始めに使う国語のノート(字の練習用)のまず目の指定などがあつたくらい。算数セットは上の子の時よりもっと簡単なものになっていました。粘土を使うようになった時も、粘土を入れる箱は、各家庭で空いている缶などを持ってきて使いました。

ピアノは、二人とも学校にそろっている

ので特に購入する必要はなく、買うのは各自が直接口にくわえる「うたくち」部分だけ。自宅にあるピアノを学校でも使いたい子だけ、家から持っていくました。給食時のお盆は学校のものを使い、使用後は給食室でまとめて職員が洗いました。給食関連で家に持って帰るのは、自分が給食当番だった週に使った白衣だけ。

靴下やノットにまで学校のマークが付いているような私立小学校ならともかく、公立の学校では全員が同じメーカーの同じ文房具等を使う必要など全くないし、上の子や近所の子から買えるものがあれば、それを使えばいいのです。無理やり揃えさせようとする学校があるとするれば、それは学校とメーカーが癒着しているから?と疑いたくなりますね。

学校で使うものや、学校の行事など、校長が変わったり地域の事情が変われば、すぐに変わるのです。上の子の時は一夏中あったプールの日も、下の子の時はほんの数日だけ。子どもの数が減って、夏休みも時間を余らせてうろうろする子があまりいなくなつたから。運動会当日、親子一緒に校庭でお弁当を食べるようになったのも、子どもが減ってスペースが確保できるようになったから。

下の子が入学する時、上の子の時は災害に備えて黄色いヘルメットを常に机の横に付けていたのに、「今年からは防災頭巾になりました」と言われたので、卒業する親たちが相談していらなくなつたヘルメットを集め、希望する新入児に渡しました。お陰で我が家のヘルメットは、十二年間も活躍してくれました。



学校問題いろいろありますが、肝心なのは主役の子どもひとりひとりがどう学校での時を過ごせるか。えんぴつやノットがおそろいでなくても、なんの不都合もありません。うちの子たちの小学校では、転校してきた子は前の学校で使っていた体育着を着てもよかったです。うちの子がスカイブルーのランドセルを背負っていても、めずらしがる子はいてもそれをネタにいじめられることはありませんでした。周囲の大人たちが「みんなと同じにしなければ」とか「あの子は違っていておかしい」なんて気にしなければ、子どもたちは変に意識しないのだと思います。

学用品だけを取り上げても、学校に対する疑問は沢山出てきます。事あるごとに疑問・質問をぶつけていくと、我が子の通う学校の姿勢や担任教師の価値観が次第に見えてくるでしょう。

就学時健診、拒否しちゃいました

名古屋市

四月に第一子が小学校に入学した。この八月まで住んでいた板橋区の教育委員会から、昨秋、就学時健康診断(就健)の案内がきたが、行かなかった。サボったのではなく、実施する趣旨に賛同できないからなので、そのことは校長に伝えに行った。

拒否してしばらくして、偶然同級生に会う機会があった。近況報告の一つで就健拒否した話をしたら「私も養護学校に行かされそうだったんだよ」という。彼女は足が悪い。親が教育委員会に掛け合い、母親が低学年の頃はずっと付き添っていたという。トイレにも一人で行けなかったからそうだった。

知らなかった。確かに彼女にいろんな場面を手を貸してきた。しかし彼女はさりげなくそれを要求し、しかも卑屈でなく自然なもので、私は彼女の足をのこすことに意識していなかった。私にとって彼女はRちゃんであって、「障害者の友人」ではない。私にこう思わせている自然さは、ずっと普通学級の中でやってきたなかで培われてきたものではないか、とこの時思った。

就健が、普通学級と特殊学級に通う子どもの線引きのために行われていることを知ったのは雑誌「ちいさい・おおい・よい・つよい」No2の記事である。自分が小学校に上がる前に身体測定や知能テストをしたことを覚えていたので、「あれに、そんな意味が、あったのか」と驚き、何も知らない母が私の小学校入学にいいよといっている空気を思い出した。なぜだか胸が詰まった。

その後あんふぁんてに入会し九十七年十月号で「小学校、みんなと違っていいの？」という特集を読んだ。一年後にきて自分はどうなのか、と突きつけられた気がした。

元々疑り深い性分なので本当に就健が子どもを振り分けるシステムかどうか確認すること、自分の子が通う板橋区立の小学校ではどうなのかを知りたいと思った。当もないので「ちいさい」編集部に記事について知りたいと尋ねた。記事で紹介されていた江東区のグループの人と連絡がつき「板橋就学時健康診断を考える会」を紹介してもらった。板橋区の会に連絡をしたのは九月。丁度、就健直前なので集会を持つというので参加することにした。夫を誘ったら、「行く」というので一緒に出かけた。

ゲストの世田谷区の亀山さんという人の話を聞いた。娘さんが重度の知的障害を持っていて高校まで普通学級に通わせてたという。普通学級に通わせてたといっても通学の送り迎え、プールに入れる入れないなど学校の対応と度々ぶつかっていく話が印象深かった。亀山さんが学校と衝突しながらも、みんなと同じことをさせようという気持ちを支えたのは「保育園では、やってこれた」事実と保育園時代の仲間の支援であったという。

亀山さんの話の後で「就健を考える会」の人たちや翌春入学を控えているが、養護学校か普通学級か悩んでいる人など、出席者三十人ほどが自己紹介した。その話を総合すると就健が子どもを選別するシステムであることは間違いないらしいと思った。それが分かった上で、亀山さんの話から、

思ったのは学校を「生活の場」とみるか「勉強の場」とみるか。どちらの見方かで就健を肯定するか否定するかが決まると思った。

私が小四の時、軽い知的障害の子が一年に入学してきた。母親が毎日付き添ってきていた。「ああいう子がクラスにいると足をひっぱられる」とか言うよその親の圧力で結局辞めていったと記憶している。こういうよその親の理屈を支える根拠として「養護学校がある」とか「就学時健診のときの知能テストができなかった」ということが持ち出されることも今回の集会での話からわかってきた。

自分のこれまでの経験に照らしイロイロ思いを巡らせてみて、自分が「学校を勉強の場以上に生活の場」と感じていると思った。親の学歴や職業や思想信条・経済力にかかわらず、その地域に住んでいれば誰でも入るのが公立小学校である。いろんな家庭のいろんな個性の子と出会うことは「よい学校の特別な教育」よりずっといいという価値観を自分が持っていることを再確認したので。

さて、しかし、である。私が良くて就健に行かないことで我が子に不利を被らないのか。これについては板橋就健を考える会でも聞いた。「寧ろ、この子の親はウルサイ」と認識させた方が学校は子どもとちゃんと向き合おうよ」と二十年会をやっている人が言った。亀山さんも「拒否するとベテランの評判のよい担任がくるくらいだよ」と言う。あんふぁんてパソコンメンバーに聴いても「入学後は何もない」という。実際、入学後、子どもには何も影響がなかった。あつけないくらいである。

情報コーナー

★「担任の産休・育休」特集原稿募集

子どもの担任がこの3年間に産休・育休で数人かわったのを通して思った様々なことを、共にわちあいなながら保護者サイドだけでなく教師側の労働実状など他方面から見たいのです。保護者として思ったこと、産休・育休をとった教員の方の意見等広くお聞きしたいです。原稿締め切り10月末。

★ドーンフェスティバル'99 自主企画

「子連れで行こう!女性センター」(保育付)女性センターって何するところ?自分を生きるってどういうこと?三人のパネラーの体験をもとに「女性センター活用術」を教えます。

◎日時11月12日(金)朝10時~12時

◎会場 ドーンセンター3階セミナー室

◎参加資料代 五百円

◎保育0ヶ月~一人八百円先着20名(おやつ・飲み物)

★世田谷で平日あんふぁんてしよう!

11月12日(金)12時~2時 三軒茶屋の情報センター「くりっく」にて。当日は「どんな保育がほしい会」が活動発表する他、2時から世田谷の公園作りに参加した人の声を聞く催しも子連れ可、并持参。参加希望者は早めにあんふぁんて事務局まで。詳しくは別紙参照。

今井

の急な引越しのため、しばらくホームページが開きませんでした。おわびします。

★ちよつとはやめのスキー遊びはいかが?

室内スキー場「サウス」に託児室がある。6カ月未満就学児まで二時間二千円。スキーセット&ウェアのレンタルもあり。大人は各一八〇〇円・子どもは身長90センチからあつて各一五〇〇円。その他滑走料一日券大人五四〇〇円、子ども一五〇〇円かかるけどね。

◎東京駅から30分京葉線南船橋駅前

◎十一月三日(休日)予定

連絡は事務局気付けで、古知又は幾代まで

★土曜あんふぁんてを私の店でやろう!

八月にオープンしたばかりのエスニック風手作り料理の店(ただし私が料理するわけではないよ)「KUPU-KUPU」は高田馬場から3分のところにあります。(午後6時~0時、日祭日休、)

◎十月三十日(土)午後6時~ 子なし

(会費は23000円 あんふぁんて同窓生にも声をかける予定)

連絡は事務局気付けで古知まで

★那須高原お泊まりおしゃべり会

参加者募集(必ずお泊まりの親戚の物)

那須高原の別荘(井ノ口)の親戚の物を

を一日借り切り、食事も自分たちで作る形で

すが子連れで、一緒にお泊まりしませんか?

◎日にち 十月二三日(土)~二四日(日)

◎交通 黒磯駅まで各自その先会員の車で

◎参加費 大人 一〇〇〇~一五〇〇円

子ども 二〇〇~五〇〇円

(泊2食の材料費及び水道光熱費等含む。参加人数で変化有り)連絡は事務局井上まで

★福岡女性まつり'99(リーディング・エンジェル展示)

妻と夫の力関係(アンケイト結果をもとに一緒におしゃべりしませんか?)

◎日時 10月23日(土)午後1時半~3時半

◎参加費無料(パネル展示は正午~4時半)

◎会場 アミカス研修室B(福岡市)

◎託児 1歳~就学前30人(10月6日締切)

◎問い合わせ 福岡市女性センターアミカス

092(526)3755

(福岡市 平岡・企画から参加)

◆8・9月合併号に「グループリスト」を同封。同封されていなかった人は事務局まで。

◆グループリストの「アレックス通信」(5P)訂正正田さん・生田さん。すみませんでした。

◆岡山の新谷 さんが、帰省の折、事務局を訪ねてくれました。皆さんも来てね。

◆ハスケジュールメモ

10月18日(月)お産ミーティング(エポ10)

10月23日(土)編集ミーティング(名古屋)

(名古屋で月一回予定・詳細は今井洋子まで)

10月25日(月)お産ミーティング(エポ10)

10月30日(土)土曜あんふぁんて(高田馬場)

11月8日(月)11月号送付作業(事務局)

ミーティング等は子連れ可。并持参。参加希望者は事前に事務局へ。

◆10月末の会員数は、419名です。

あんふぁんては、会費のみで運営している会です。振り込みがまだの人は、至急お願いします。会費が切れても本人からの連絡がない限り退会・休会の措置が取れません。転居等の場合も必ずご連絡ください。

新連載

やっぱり

神戸が好き

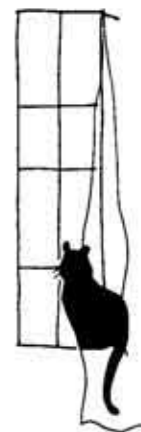
あんふぁんて四月号（NO.247）に阪神大震災等の災害について会員の体験を知りたいという投稿が載りました。それがきっかけで神戸市の さんが95年1月の阪神大震災とその後のことについて自分の体験を書いて下さるようになりました。

神戸市

「ドーン」それは、大きな音から始まりました。「爆弾？」とまさにそう思い、布団から跳び起きた私の目に写ったのは、同じように跳び起き、りすの様に目をまん丸にして私を見ている娘と、その上にコマ送りのようにゆっくりと倒れてくる大きなタンスでした。「危ない！」そう叫び、布団をつかんで娘の上にかぶさり、「頭を打たないように、ひっこめないと！」と考え、実行した瞬間、タンスが倒れてきました。そのあと激しく上下左右に揺れ、はじめて地震だと気がつきました。その揺れは、いつまで続くのかと思うほど、長く感じられました。

揺れがおさまり、タンスを持ち上げようとしたが、とても無理で、そのうち、タンスと布団の重みで息苦しくなってきました。隣の部屋で息子と寝ていた夫が、開かなくなったふすまを蹴破り、やっと助けてくれました。息が楽になり、「助かった」と思ったのもつかの間、部屋の中は、信じられないくらいぐちゃぐちゃでした。足元に散乱しているガラスの破片や本、倒れているタンス、本棚。壁に大きな穴を開け、ゆがんで塗装がはがれたビアノ。何が何だかわからないまま、とにかくリビングに行くと、そこもまたひどい状況でした。ありとあらゆるものが倒れ、割れ、唯一まともに残っていたテーブルの下に子どもたちを入らせ、非常袋とくつを取りに廊下に出ると、和室のふすまを倒して、タンスが道をふさぎ、乗り越えなければ通ることができませんでした。

けれども、こんな事ぐらい、序の口だったのです。もっともっと大変な事が起こっていることに、まだ気がついていなかったただけなのです。



あんふぁんてホームページアドレス <http://>

☆事務局までの地図☆

☆当会について詳細を知りたい場合、封書に〒・住所・氏名・☆を明記し、切手四百円分（なるべく少額切手）を送って下さい。入会希望の場合はなるべく会費六ヶ月分（三千円）以上まとめて、郵便局の振替口座に払い込んで下さい。

第252号（毎月1回5日発行）
1999年10月5日発行
（1975年7月26日初刊発行）

あんふぁんて 10月号

発行人 / _____
発行所 / あんふぁんて出版部

電話
（平日12時～2時それ以外FAX）
定価 / 500円
振替口座 / _____
加入者名 / あんふぁんての会

©本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

「覚えていますか？ チェルノブイリの原発事故を！」 原発・環境について投稿者大募集！